

第2回 市政モニター会議で出された主な意見

【具体的な提言】

1. 「活力あるまちをつくるために必要な取組み」

① オートキャンプ場の整備

② 飛行場の建設

③ 新幹線の延伸

⇒ 「できる」「できない」で話せば将来的な展望も期待できない。大きなことについても考えるべき。

④ 北海道一の規模を有する市場の建設

⇒ せっかく新鮮な海産物があるのに活かしきれしていない。根室に魅力的なものを作らないと根室に来る人がいなくなる。

⑤ 春国岱の木道整備

⇒ 観光のための観光ではなく、自然を守るための観光になっている。自然を保護する事は大切だが、共存共栄を考えていかななくてはならない。

⑥ 農水産業を活かした観光振興

⇒ 厚床にある民間牧場でおこなっている取組みや、市場のセリ見学や漁業者宅への民泊など、一次産業を活用し観光振興を図るべき。

⑦ ガイドツアー参加者への補助金の創設

⇒ 根室の自然を活かし、観光客を呼ぶため具体的な手段を考える必要がある。

⑧ スポーツ施設の整備

⇒ 管内の他自治体に比べ整備が遅れている。スポーツ団体の誘致につながる。

2. 「安心して暮らせるまちをつくるために必要な取組み」

① 新設高校への福祉医療関係専門科の創設

⇒ 医療関係の専門学校に進学できるような環境を整備すれば、医療従事者の確保につながる。

② 新設高校への特色ある専門科（水産科、酪農科、観光科、歴史科等）の創設

⇒ 中学から高校へ進学する際に、今後の進路の選択肢を増やしてあげることにより、根室の高校の特色を出すことができる。

③ 産婦人科医の確保

⇒ 安心して子どもが産むことのできない根室に若い人はこない。出来ないなら出来ない理由を市民に知らせるべき。

④ 教育のレベル向上

⇒ 大学進学で根室を離れたとしても、根室の良さをしっかりと認識していれば、大きく成長し根室に戻り、将来の根室を背負って立つ人材の育成に繋がる。

⑤ ケアマネジャーの育成

⇒ 市内のケアマネジャーは不足しており、学校などの空き施設を活用し、ケアマネジャーの育成に取り組んではどうか。

⑥ 健康づくりの推進

⇒ 医療体制を充実させるという考えから、健康づくりを推進し、病院にかかる回数を減らすという考えにスイッチしてはどうか。

⑦ 子どもと大人相互見守り環境の整備

⇒ 子どもと大人（特に高齢者）の結びつきを増やし、大人が子どもを見守り、子どもが大人を見守る相互の信頼関係を築くことができれば、安心して暮らせるまちになるのでは。

3. 「市民が知らない根室の魅力を発信するために必要な取組み」

①根室の魅力を伝える世界レベルのガイドの養成

⇒ 誰が来ても自信を持って根室魅力を世界各国の人々にアピールできる人材を育成すべき。英語力、コミュニケーション力の強化が必要。

② 子どもリーダー研修の内容充実

⇒ 子どもレンジャーのように根室の自然に小さいころから親しむことの出来る仕組みを作れば、根室を離れたくないと思える子どもが増える。

③ 博物館の建設

⇒ 根室に対する認識や知識を深めるためにも、観光、生活文化の面からも、博物館が必要。10億、20億かかるようなインパクトのある建物を作るべき。それにともない、生活文化を専門とする学芸員を増員させる必要がある。

④ ボランティアガイドの育成

⇒ 最近の定年した世代は若くて、時間もある。成人学校などで「春国岱」や「チャシ」など特化した専門のガイドとして育成してはどうか。

⑤ 幼少期からの自然学習の推進

⇒自然についての知識が豊富なレンジャーなどが、学校の授業のなかで、根室十景を素材に、根室の自然の魅力を伝えたり、学校の授業以外にも学校外の冒険クラブ等、通年または6年間通して携わることができる自然について学ぶ場があればよいのではないか。

⑥ 観光に市民が積極的に参加できる環境整備

⇒ 外国人バードウォッチャーに英語で案内する手伝いを中高生にお願いするなど、地域の人が地域の人しか知らない情報を案内できる環境があれば良い。

【その他の意見】

ハード整備が必要

- ⇒ 魅力的な施設があれば、観光の面からも交流人口増が期待される。
- ⇒ 基本的な施設運営が出来ていない。管内の自治体はしっかりと施設整備をしている。お金をかけるところにはかけなくてはいけない

ハード整備は不必要

- ⇒ ハード整備については、建設費だけでなく維持管理にも多くの費用がかかり、それを補う売り上げをあげることは難しい。
- ⇒ 根室は地理的にも人が集まりにくく、ハード建設はとても危険だと思う。
- ⇒ 市民一人ひとりの意識を高めマンパワーを増やすべき。

根室には魅力がある

- ⇒ 最近では外国人観光客も増えており、北海道、日本クラスではなく世界に打って出る素材がある。
- ⇒ 根室は多くの魅力を持っており、その魅力を子どもの頃からしっかりと認識させることが必要。

根室には魅力がない

- ⇒ 公共機関、商店街、医療・福祉どれも不安を抱えており、負の連鎖が波及し、市民からも「根室はもうダメ」という声が出ている。
- ⇒ 地元の人でも魅力を感じていないのに地方の人が根室に住みたいとは思わない。
- ⇒ 人口流出は子どもが地方で生活基盤が出来たことから、親を呼ぶことが大きな要因。子どもを定着させるシステムを考えるのが先決。

将来を見据えた取組みが必要

- ⇒ 現在の人口流出については、歯止めは利かないが、10～20年先に、成果が実り、若者が定着する可能性は十分にある。

現時点で実行できる具体的な取組みが必要

- ⇒ 将来の夢も大切であるが、現時点でやりたいこと、すぐに来ることを具体化して提言していくべきである。10年後には、10年後の人間が新しい夢を語ってくれれば良いと思う。